

# 上海「ミニ」通信

(北九州市 上海事務所から中国・上海の「今」をお伝えします！)

JICA（国際協力機構）は、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う機関として、開発途上国への国際協力を実施しています。北九州市には、JR八幡駅近くに JICA 九州があり、その中のレストランや、図書館は一般にも開放され、広く市民にも親しまれています。先日、JICA 中国事務所の方と、中国での JICA の活動や本市および本市の企業などとの連携可能性などについて意見交換をする機会がありましたので、今回はそこで分かったことなどをレポートします。

平成 28 年 8 月 26 日

## 【第 6 回】 JICA 中国事務所の今後の活動の方向と 北九州市および市内企業との連携の可能性について

### 【今日のポイント】

- ◆中国での日本の ODA は、**越境公害（大気汚染）、感染症、食品の安全等**、日本国民の生活に直接影響する分野に限定して現在も実施されている。
- ◆中国向け援助は、日中双方が応分の負担をしながら課題解決に取り組むなど新たな手法が試行されている。
- ◆JICA の最大の強みは、過去のプロジェクトで蓄積したノウハウと、現地の中央・地方政府との太いパイプ。上記の特定 3 分野や高齢化対策などの新分野で市内企業の新たな技術や知見などがあれば、JICA の支援を得ながら実証実験の可能性など案件を発掘していくとは可能（JICA も企業との協働を望んでいる）。

### 1 中国での JICA の活動について

世界第二位の経済大国である中国に対して、日本がまだ ODA で支援をしているというのが、腑に落ちませんでしたが、お話を伺ってみると、円借款の新規供与は2007年に終了しており、現在は**日本の国民に直接影響のある上記の特定3分野に限って行われている**ということでした。

また、やり方としては、日本側がこれまで蓄積したノウハウや新技術などを提供し、中国側が主にプロジェクトの運営にかかる費用を負担するというパターンも試行されているようです。

下の図は、小さくて恐縮ですが、JICA の中国国内での最近のプロジェクトの分布です。特徴的なのは、①赤丸で記された技術協力・共同研究(赤丸でプロット)が中心であること。②分野的には、PM2.5 対策など大気汚染に関するものが大部分であることです。

また、上記の3分野以外の新しい取組として、今年から高齢化対策プロジェクトが発足しました。これは、日中が協力し、法律・制度構築、在宅又は地域ケアシステムの整備、専門人材の育成を行うというものです。

昨年末で、60 歳以上が 2.2 億人(全人口の約 16%)で、既に世界で最も多くの高齢者を抱える国になったこの国で、両国にとって重要課題である高齢化対策で技術協力を行うことは双方にとって本当に意義深いことではないでしょうか。

### 2 本市および本市企業の JICA との連携の可能性について

本市は、これまで、前回レポートした大気改善に関する国際協力も含め、市内企業の海外展開支援についても、国や JICA などの支援を得ながら実施することが多くありました。

今回お目にかかった JICA の方も、日本企業が JICA のスキームを活用し、自社技術を中国で広め、結果的に中国・日本双方にメリットがあるような形をつくりたいとのことでした。

弊所は以前、上海市での環境教育に関して JICA の事業を活用した実績があるので、今後、上海市府はもちろん、こちらの地方政府のお困りごとなどへの感度を上げて皆様に情報発信したいと思います。また、高齢者対策など、環境以外で市の新しい顔ができないかなど、引き続きウォッチしていきます。

本稿をお読みいただいている方の中で、市内企業の方と接していて、きらりと光る技術など、面白そうなものをお気づきの方は(もちろん企業の方ご自身でも構いません)、弊所までぜひご連絡ください！！

